

薬剤部 DI ニュース

★海外渡航時に必要なワクチンについて★

海外渡航時に必要なワクチンの接種は、渡航先で義務付けられているワクチンやEPIワクチン(※)を最優先に行い、渡航先の衛生・流行状況、渡航目的や期間によって選択します。

例えば3ヶ月以上の長期滞在者の場合、先進国では破傷風、留学では麻しん・風しんなどの接種を要求されることがあります。

また途上国ではA型肝炎、B型肝炎、破傷風をすすめ、渡航先により必要なワクチンを追加します。

※EPIワクチン: WHOを中心に世界規模で推奨しているワクチン

「BCG、ポリオ、DPT(ジフテリア、百日咳、破傷風)、麻しん」(B型肝炎もEPIワクチンとみなすことがある)

＜海外渡航者に推奨される主なワクチン＞

(滞在期間は、ここでは短期「3ヶ月未満」、長期「3ヶ月以上」。接種回数は、日本で定められている予防接種回数)

ワクチン	滞在期間	滞在地域	特に推奨されるケース	接種回数	免疫持続期間	備考
A型肝炎	短期 長期	途上国全域	60歳未満、 不衛生地域滞在者	3回	5年	用法:16歳以上 (0歳～15歳は承認申請中)
B型肝炎	長期	途上国全域	医療関係者、現地の 人と密に接触する人	3回	10年以上	検疫所では接種を実施して いないため医療機関で接種
黄熱	短期 長期	熱帯アフリカ 南米	予防接種証明書 (イエローカード)要求国に 入国する人	1回	10年	検疫所、検疫衛生協会診療所 でのみ接種実施
日本脳炎	長期	中国、東南・ 南アジア	農村部滞在者	3回	3～4年	基礎免疫がある人は追加接種 することが望ましい
破傷風	長期	途上国、 先進国	1968年以前生まれの人 (1968年からDPTとして定期接種 開始)、野外労働者	3回	5～10年	基礎免疫完了後10年以上経過 している場合は追加接種する ことが望ましい
狂犬病	短期 長期	南アジア、 中南米、 アフリカなど	動物と接する人、 医療機関の乏しい地域 への滞在者	3回	2年	狂犬病の可能性のある犬 などに咬まれたり、唾液に接触 した場合は6回接種
コレラ	短期 長期	南アジア、 アフリカなど	ワクチンの効果が弱く あまり推奨していない	2回	6ヶ月	免疫効果率50%前後
ポリオ	長期	南アジア、 アフリカ、 中近東など	1975年～1977年生まれ の人(この時期の定期接種は 効果が低かったため)	2回	数年	流行地へ行く場合は追加接種 することが望ましい
麻しん 風しん	長期	途上国、 先進国	欧米留学生 欧米留学生 妊娠可能年齢女性	1回	ほぼ一生 10年以上	欧米ではMMRワクチンで 追加接種を行うことが多い